

令和5年度予算編成方針（案）

令和4年9月13日
狛江市長 松原俊雄

新型コロナウイルス感染症との闘いも、3年目となったが、現在の新規感染者数増加の第7波は、ピークを越えたと思われるものの、過去最大を更新し、死亡者数も最大となっている。ウイルスは変異を続けており、今月からは、オミクロン株に対応したワクチンの接種を開始する。ワクチン・検査・経口治療薬の開発・普及等により、予防、発見から早期治療までの流れが確立され、新型コロナウイルス感染症の脅威を社会全体として引き下げることが期待されている。しかしながら、この間、社会経済活動は正常化に舵を切ってきたものの、世界情勢の不安定化等により、石油・電気・ガスなどのエネルギーや原材料価格など物価の高騰が続いており、市民生活や事業者の経営環境は厳しさを増している。

このような状況において、令和5年度は、引き続き、基本的な感染症対策を実施しつつ、この難局を単に乗り越えるだけでなく、コロナ禍によって顕在化した課題等を踏まえ、ポストコロナの新しい日常を見据えた施策を展開する必要がある。デジタルトランスフォーメーションやグリーントランスフォーメーションという大きな変革の波に乗り遅れないようにしなければならない。また、東京都が公表した、首都直下地震等の新たな被害想定で顕在化した課題への対応も必要である。

過去最大を更新してきた市税収入は、令和3年度で減額となったが、国税収入は、過去最大を更新した。また、今年4～6月期の国のGDPは、物価の変動を除いた実質で、前期比0.9%の増、年率換算で3.5%の増となり、実額ベースで、コロナ前にあたる令和元年10～12月期の水準を超えた。しかしながら、その後の感染再拡大や急激な物価高騰など、今後の見通しは決して明るい状況にない。

こうした現状を鑑み、令和5年度予算は、総合基本計画の令和3年度実績を踏まえた行政評価を反映するとともに、6月の市長選挙の際に掲げた公約、また、第1回臨時会での所信表明を踏まえた編成とする。新型コロナウイルス感染症の長期化、世界情勢の不安定化による物価高騰などにより、より限られた予算とせざるを得ないことから、先に示した事業を着実に実施するため、進捗状況を整理し、成果と課題を明確にした上で、メリハリを持った要求としていただきたい。

以上、先に企画財政部長が通知した「令和5年度予算編成要領について」に留意の上、適切な予算編成に努めていただきたい。